

海外の子供たちへ クリスマスカード

2020年12月

メリー クリスマス & ハッピー ニュー イアー
みなさま、楽しいクリスマス & よいお正月を！

From 「被災地の子どもたちにクリスマスカードを届けよう！」プロジェクト

代表 中央大学名誉教授 田中 拓男

事務局長 田中 絵里子(娘)

<https://www.facebook.com/XmasCardsFromFriendsAroundTheWorld>

ご挨拶 頑張っている子どもたちへ

今年は、新型コロナウイルス(COVID-19)の世界的な感染拡大(パンデミック)で、海外のみなさんも本当に大変な1年間でしたね。いつものように学校に行き、先生や友達と一緒に楽しい学校生活を送ることもなかなか思うようにはできず、厳しく辛い時間を耐えてこられたのではないかと日本でとても心配していました。大切な人々とお会いするために故郷日本に帰国することもなかなか難しくなり、寂しい想いをされた友達も多かったことでしょう。それでも先生や友達と仲良く協力しながらみなさん本当によく頑張ってくださいました。

秋に入ってコロナウイルス感染の第三波が再び世界中を襲っています。日本でも今各地でウイルス感染者数が非常に多くなり、年末やお正月に懐かしい故郷に帰ることが難しくなるかもしれないと心配しています。マスク着用、手洗い、「3蜜」の回避など、様々なコロナ感染予防策の確実な実施など、みんな日々それぞれに懸命に感染防止に努力していますが、早くこの騒ぎも落ち着いてほしいと祈っています。

このような辛く厳しい状況の中で、海外で頑張る皆様のことがとっても気になっています。地球上の地域によって大きく事情は異なりますが、多くの国で再び外出自粛やマスク着用などの厳しい感染防止措置が導入されていると伺っています。みなさま、その後の学校生活はいかがでしょう、いつも案じています。みなさんを励ましたくて、クリスマスメッセージを送ります。

今回送付のメッセージと写真

私たちプロジェクトは、厳しく難しい状況下で皆様が少しでも日々明るく元気になれるようにと心から願って、夏に続きクリスマス・メッセージと写真をお届けします。今回のメインテーマは海外在住のみなさんの心のふるさと「日本と日本人」です。

日本中が明るい話題で喜んだノーベル賞の受賞者京都大学の山中教授は、人と日本への想いが非常に強いと伺いましたが、先生の研究室から海外の中学生等向けに先生の本3冊のご推薦をいただき、また、最近のイ

インタビュー記事の紹介の了解を得ました。ご紹介します。

みなさんは、今年は帰国することは叶わずとも、日本のお正月の行事などに関心がありますか。代表的な正月行事はお宮参りです。つい先日明治天皇を祀る明治神宮にお参りして写真を撮ってきました。また、私達のプロジェクト仲間の松村有規さんが、地元島根県にある大国主命を祀る出雲神社にお参りして写真を撮って送ってくれました。そのなかで神話「因幡のうさぎ」の話を取り上げています。日本の代表的な霊山富士山のお正月の神々しい姿も実に見事なものです。地元のアマチュア写真家宮崎泰一さんの撮影で、多数の写真が届けられました。

お正月に日本人みんなが心から願うのは、コロナ感染問題の収束です。コロナ問題が収束すれば、その象徴として、東京オリンピック・パラリンピックが夏に開催されます。先日東京オリンピックのメイン会場の国立競技場を訪問して、みんなの願いを込めて写真撮影をしてきました。オリンピックには、もし可能ならば、皆様も日本に帰ってきて一緒に人類の祭典を楽しんでほしいです。被災地福島からは、美しい福島の風景写真が届きました。福島ではオリンピック種目の野球やソフトボールが開催されます。最後に日本の小学校の近況をお伝えします。

今回は写真を中心に編集しましたが、美しい日本の風景を楽しんでください。ただ、多くの写真が海外までうまく伝わっているかとても心配しています。画質が落ちている場合、お許しください。

皆様へ 励ましのメッセージ again

ほぼ1年間もの長期にわたり、新型コロナウイルスが世界中に蔓延して、みんな大変厳しい日々を過ごしてきました。こんな暗いトンネルの中に入った時代には、仲間みんなと笑顔で温かい声を掛け合って励まし助け合いながら、この困難がなんとか過ぎていくまで我慢し耐えていくしかありません。みなさんならきっとそれができます。よく耐える力がついてきています。そして、トンネルの向こうには、みなさんの輝く未来を照らす希望の光が明るく差し込んでいること、決して忘れないでくださいね。みんなと一緒にがんばりましょう！

ちょうど10年前日本でも、東日本大震災によって信じられないような壊滅的な被害にあいました。その中でも、私たちみんなで、温かいメッセージを書いて被災した子どもたちに送り、声を掛け合い励まし合ってきました。とても勇気づけられたと、非常にたくさんの感謝の礼状が返ってきました。今あの被災地は立派に復旧復興しており、夏にはオリンピックを迎えようと準備しています。

「遠く会えなくても、声を掛け合うことの大切さ」

今日本では、辛い時には声をかけて助け合うことの大切さが注目されています。昨夜のNHKニュースによると、コロナ感染拡大の危惧から、遠く離れた親しい仲間たちとお会いして旧交を温めたり、田舎の家族との温もりをお互いに感じ合うことが、人の混み合う年末年始などでは特に難しくなっており、その結果、離れていても絶えずお互いに愛の言葉をかけあい、言葉のもつ力で親密な愛のつながりを大切に保ち育てていこう、という人が多くなっているそうです。皆様も、是非親しい人々との愛の言葉の掛け合いを大切に励まし励まされ、これからも頑張ってくださいね。許されるなら私たちもその声掛けの輪の中に入れてください！

「ノーベル平和賞受賞者 マザー・テレサからの励まし」

ノーベル平和賞のマザー・テレサは、貧しかったインドの底なしの深い暗闇の中で明るい救いの光を輝かせ、多くの人々の心を励まし勇気づけてきました。マザーの励ましの言葉から引用です。

・みんなで助け合うことの大切さ

「相手への理解—共感・同情—心のつながり—助け合う愛の実践」

「愛の助け合い」は、相手を正しく深く理解することから始まります。相手の厳しく辛い状況を理解すると、きっとその方へ同情する気持ちが湧いてきて、あなたの優しい心は悲しみや喜びを共に感じる（共感する）ようになります。そして、相手の心と親しくつながり励ましながら、相手のためにしてあげたいという愛の奉仕への想いが強くなってきます。こうして助け合う愛の実践活動が始まります。

この辛い時期にみなさんも、ともに苦しむ仲間や家族たちに寄り添い、お互いに温かい心で親しく交流しながら、小さくても良いなにか周囲の人に奉仕する機会を見つけて助け合う、そんな愛の実践活動への取り組みが大切です。頑張ってくださいね。

・常に学び、良い考えに沿って実践し、習慣化

「考え—行動—習慣化—人柄・人格—運命」

みなさんは、今学校でいろんなことを一生懸命学んでいます。良いことをたくさん学んで立派な知識や知恵をたくさん自分の体と頭脳の中のためにためていってくださいね。時間が限られ、リモート学習など慣れない授業方式の導入などで、いつもの学習活動がなかなか思うようにいかなくても、決して学ぶことをおろそかにしないでください。良い学びの上にあなたの長い人生の幸せ（運命）が築かれていくのですから。

良い考えを学んで立派な知識が豊かにあると、あなたの日常的な行動は、よい知識や知恵の上に必ず良い行動になるはずです。良い行動を繰り返すと、いつかあなたにはよい行動習慣が身についてきます。大きくなった時どのような日頃の実践の習慣を身につけているかによって、世間でのあなたの人柄や人格の評価が決定的に影響されてきます。素晴らしい人柄・人格の人には、多くの素晴らしい人柄の方々がその周りに集まり、お互いによく協力しあって立派な仕事を成し遂げることになります。その時、あなたにも必ず大きな幸せ・よい運命が待っています。明るい未来を切り開くためにも、今どんなに困難があろうと、学校の学習活動を熱心に取り組んでくださいね。

田中 拓男 著 『マザーテレサに倣って 愛をつなぐ奉仕活動』（刊行予定）より

ノーベル賞受賞の京都大学山中伸弥教授

コロナ禍のお正月に、日本の明日への希望を照らす明るい話題を探していたところ、再生医療の IPS 細胞の発見でノーベル賞を受賞した山中教授の研究室に連絡を取ることができました。今コロナ禍の中で心までも辛いみなさんに、輝かしい未来へ向けて大きな夢・志を描き頑張ってもらいたくて、輝かしいノーベル賞の山中先生にて海外の皆様のことを話しますと、次のようなお返事をいただきました。

「お尋ねいただきました中学生向けの文章ですが、

山中は、以下のような書籍を出版したり、対談で参加したりしております。

- 1) 『山中伸弥先生に、人生と IPS 細胞について聞いてみた』
(講談社新書 2017年 先生の自伝です)
<https://www.amazon.co.jp/dp/4062207672/>
 - 2) 『まなの本棚』 (対談掲載) (2019年 Kindle 版電子書籍もあり)
<https://www.amazon.co.jp/dp/4093887004>
 - 3) 『僕たちが何者でもなかった頃の話しよう』 (テキストと対談掲載)
(文春新書 2017年 電子書籍も)
<https://www.amazon.co.jp/dp/4166611186>
- ご参考いただけましたら幸いに存じます。どうぞよろしくお願い申し上げます。」

詳しくは以上の本など参考にしていただきたいのですが、お正月に向けてみなさんに山中先生をご紹介したいと思い、最新刊の雑誌「PARTNER 12」(MUFG 三菱UFJニコス 発行)収録の山中先生の記事を、当該出版社および先生のお許しを得て引用させていただきます。「」内は引用文。

山中教授が人工多能性幹 (IPS 細胞) の作成に成功したのは、2006年にマウスの皮膚細胞、続いて、2007年にはヒトの皮膚細胞でした。人類で初めて再生医療の道を切り開きました。従来から難病と言われていたいろんな病気にも新たに治療の道が開かれたのです。その学術的な功績が世界的に高く評価され、先生は2012年にノーベル生理学・医学賞を受賞されました。日本中が喜びに沸いたことがつい昨日のように思い出します。

みなさんに山中教授を紹介しようと思ったのは、その偉大な業績だけでなく、IPS 細胞研究にかけた先生の人生の素晴らしい姿に感動したからです。きっと大変なコロナ禍の中にじっと閉塞感を感じているみなさんは、未来に向かう大きな力を先生から受け取り強く励まされると思います。雲の上の話として終わるのではなく、みなさんの心に直に響くお話です。

「悲しみの諦めから希望の未来へ、挑戦へ強い意志」 山中 伸弥 教授

先生の大切な方であるお父さんや友人の名ラガーマン平尾誠二さんがガンで亡くなりましたが、その悲しみから立ち上がり「大切な人の命を奪った病気をやっつけたい」という強い思いが湧いてきて、先生の研究

活動の原点になっているそうです。身の回りに辛いことや悲しいことがあると、いつか諦めて受け入れざるをえないですが、先生はそれを強烈なバネにして生涯にわたってこの難病との戦いに挑戦し続けていられます。先生は「行動するしかない」。しかも、その挑戦は、決してすぐに成功が見込めるような生易しいものではなかったのです。先生の比喻によると、暗闇の中でバットを振って速球を打ち返そうとするような難しい作業、野球大好きな私にとっては、そんなことは無理！無理！と、初めから拒否したくなるような挑戦です。何回も失敗しながらも諦めずについに2006年に成功することになりました。素晴らしい頑張りとしか言いがありません。先生は自分の経験から、「大切なことは、成功すると思うな」「10回やったら9回は失敗する」と述べています。挑戦者にとって心に強く響く言葉です。さらに大切なことは、単に失敗を繰り返すというのではなく、「失敗した9回の中にもものすごいチャンスが潜んでいるケースがあるのです。失敗から学ぶ」「失敗に新しいチャンスがあり、新しい世界が広がったということが何度もありました」。ノーベル賞学者からこのようなすごい話を伺うと、みなさんも失敗を恐れずに「何か新しいものに自分も挑戦してみたいな」と思うことが出てくるでしょう。そんな時、失敗を重ねていかないと目標にたどり着かないと思って、山中先生に負けないほど辛抱強く粘り強く、トライアゲイン！トライアゲイン！自分を鼓舞して頑張ってくださいね。

もちろん、先生がここまで何度も失敗しながらも耐え抜いて挑戦を繰り返したのは、はじめに触れたように、自分のこの挑戦を通じて、世の中の誰かに役に立ちたい、社会に貢献したい、という強い信念があったからだと思います。みなさんも将来社会に役立つ人間になりたいという想いを今からしっかり育てていてください。それが未来のみなさんの活躍を支える強烈なバネになります。もう一つ先生の挑戦を支えたのは、たくさん学習して専門的な知識を豊かにし、その中で、まだ誰もやっていないけどこれはきっと正しいことだ、という真理に到達し確信されたからだだと思います。「理論的にはIPS細胞からあらゆる体の細胞を作り出すことが可能」という真理を、先生は事前に深く調べて確信していました。みなさんも何かに挑戦する時には、ドンキホーテのようにやみくもに目の前のものになんでも挑んでいくのではなく、しっかりとして学習を繰り返していろんな知識を豊かに蓄えておくことが大切だと思います。その時初めて失敗の中から大切な気づきが得られ、それを土台にしてまた新たな意味のある挑戦をすることができるからです。

実際に挑戦して失敗すると、誰でも惨めな気持ちになって自信喪失、落ち込んでしまいますよね。それが人間だから仕方ないです。落ち込みからの立ち直りの早い人もおります。アフリカの密林で困難な医療活動を展開し、その素晴らしい業績でノーベル平和賞を受賞されたシュヴァイツァー博士は、目の前の辛い現実はどうにもならないものと悲観的に落ち込んでしまいやすいが、これからの未来について強い意欲をかき立てていけば、なんとか未来を切り開くことができるのではないかと非常に楽観的な明るい気分になる、と話しています。過ぎたことには悲観主義者、これからのことには楽観主義者、意志と意欲さえ持てばなんとかなるさ、と困難な道を切り開く勇気が湧いてきます。いつも楽観的に考えましょう。

同時に、自分一人では力が足りなくても、仲間と一緒にチームを組んで協力していけば、新しい挑戦と成功の道が開かれるものです。「私の使命はIPS細胞技術を患者さんに届けること」「これは私ひとりではできません。大勢の人たちの協力と役割分担があって、たすきをつないでいく駅伝に近いものです」と山中教授は話しています。仲間で助け合う習慣は、将来どのような場面でも非常に大きな力になります。

中学生の医師への夢

以上は山中伸弥教授のお話ですが、みなさんの中には、偉人伝を読むような気分で自分とあまり関係のない雲の上の話と思っている人もいるかもしれません。それでみなさんにより近く感じられる私の経験談を追加しておきます。お父さんとの突然の別れで悲しみに沈む中学生が、病気と闘う医師になろうと決意し、研修医になる話です。

彼女は、中学2年生の時に突然、最愛の若いお父さんの命を病気（ガン）に奪われました。深い悲しみの中でこの病気から人々を救うために自分は将来医者になりたいと人生の志を固めたのですが、そんな彼女を知ったのは「全国中学生人権作文コンテスト（法務省主催）」の作文でした。自分の辛い体験をまとめてコンテストに応募し、埼玉県の代表として進んだ全国大会で「佳作」の表彰を受けたのです。みなさんとあまり変わらない年頃の生徒さんの話です。作文を一読して非常に感動した私は、早速便りを出して励ましました。彼女

は、家庭の厳しい事情があり国公立の医科大学へ現役入学を目指しましたが、本当に大変な受験勉強の連続でした。途中で何度も挫折しかけた彼女の心を支えたのは、作文に書いた「志」・強い使命感でした。私も悩む苦しむ彼女を見守りながら長い間寄り添い、シュヴァイツァー博士のように社会のために貢献する人生の素晴らしさを語り続けました。高い目標に向けて懸命に努力を重ねた結果、見事現役で公立の医科大学に合格、そして、入学した医科大学で非常に優秀な成績を残し、来春から研修医として大震災被災地の福島で働く予定です。高い「志」の先には必ず道が開けます。どんな環境に置かれても努力を積み重ねるみなさんの未来が、素晴らしいものになることを祈っています。

『PARTNER 12』



明治神宮

お正月の初詣客が日本で一番多い明治神宮に、11月末の夕方、娘と一緒に参りました。森厳な神気の中で、コロナ禍で辛い思いをされている海外の皆様が、1日も早く普段通りの学校生活に戻れるようにと、心からの祈りを捧げました。明治神宮は、鎮座百年記念の大祭を迎えて、今秋天皇皇后両陛下、上皇上皇后両陛下、秋篠宮皇嗣同妃両殿下が御参拝されました。例年は、海外からのお客さんも多く参りされており、大都会・東京の真ん中で「自然共生社会」への希望が実感できる場として、広大な神宮の森は参拝者に静かな心の癒し・安らぎを与えています。

娘が撮影した写真をいくつかお届けしますが、少しでもお正月の初詣の喜びを感じていただきたいと願っています。「神宮の杜」は、70万平方メートル東京ドーム15個分の広さで、あまりにも大きすぎてなかなかその全容をみなさんに正しくお伝えすることができません。入り口の大きな鳥居から入り境内を歩くと、うっそうと高く伸びて青々と茂る樹木の多さに圧倒されます。まさに自然の豊かな宝庫、樹木約36,000本を含むシダ植物等1,043種、野鳥133種を含む動物1,797種その他で、合計して187目684科2,008属2,840種も確認されています。

写真に見るように境内には豪華な菊の花などが展示されており、また、七五三の綺麗な着物姿の子供たちも多く、可愛い笑顔で嬉しそうにご両親のカメラに収まっていました。そこには、みんなとても幸せで落ち着いた喜びが溢れていました。私はこの神社に祀られている明治天皇の尊い御心を表した「御製」を思い出していました。

『 御製「よもの海」 』

よもの海 みなはらからと 思ふ世に など波風の たちさわぐらむ

新しい年こそ、コロナウイルスの世界的な蔓延が収束し、世界の人々が平和に仲良く暮らすことができますように、改めて心からの祈りを捧げました。地球の「平和の祭典」が、この神宮の森の一角にある国立競技場で開催されること心からお願いしました。みなさまの新年の幸せをお祈りしています。







神話「因幡の白兎」を基に作られた「ご慈愛の御神像」の他に、出雲大社境内のいろいろな場所にウサギたちがいます。

神話の「因幡の素兎」

「神話」は、日本人なら誰もが子供の頃に絵本などで学び、また次の世代の子供たちへと語りつないでいる神様の物語です。その中で、この写真の「因幡のうさぎ」の神話は、昔から日本人の心に優しさや慈愛の大切さを語りかける物語になっています。みなさんもすでによくご存知だと思いますが、次のようなストーリーです。

白ウサギがサメに全身の皮を剥がされて痛くて泣いている時、大国主命に優しく助けられます。出雲大社の祭

神である大国主命には兄たちがいますが、意地悪な兄たちは、泣いているうさぎを騙して、“海水に浸かり風に当たれば治る”と教えます。その結果、うさぎの傷はさらに酷く悪化して痛みで泣いていると、そこに現れた大国主命が、“真水で塩を洗って蒲（ガマ）の穂に包まれると良い”と優しく教えます。おかげでウサギの傷が癒えました。

これはあくまで昔の神話ですが、神話の中に日本人の心に残る大切な教訓が込められています。人は誰でもこの世で生きてると様々な悪いこと、危険なことに会うことがあります。私たちは、生きている間にこのコロナウイルスのように危険なものにもしばしば出会い囲まれます。ですが同時に、このような厳しい世の中でも、困っている人、傷ついている人、悲しんでいる人、貧しい人を、心から優しく温め助けてあげようとする人が必ず現れるのです。日本人の伝統的な心の中に人を助ける慈愛の優しさが組み込まれているのです。因幡のうさぎの神話は、日本人の美しい慈愛を象徴する神話として、昔からみなさんに言い伝えられています。その話に育てられた日本人の私たちは、少しでも困っている人を助けられるような慈愛の人に成長することをいつも心の中で願っています。

月光の明るい夜には、いつもお月さんで餅つきをしている兎さんに呼びかけています。「海外の子供たちもみな元気に頑張っているかな、そこから見えたらうさぎさん、みんな頑張れ！と伝えてよ」

霊峰富士山の美しい姿

富士市立高校のみなさん

お正月は、なんといっても日本一の霊峰、富士山の初日の出！

1年365日、富士山の美しさをいろいろな角度から撮影されている地元カメラマンの宮崎泰一さんの写真をお送りします。すでにお送りしたものと併せてみてください。

地元の富士市立高校のみなさんから、たくさんのクリスマスカードを預かっています。ほんの一部ですが、写真に撮ってお送りします。担当の柿島由和教諭から、海外のみなさんに是非よろしくと伝言をいただいています。柿島先生は、長年にわたって道路や公共の場所のトイレ清掃・道路清掃の活動に、清掃仲間のみなさんと生徒さんたちとともに献身的に取り組んでいます。もし公共的な清掃活動に興味がありましたら、先生にご連絡ください（中継します）。





東京オリンピック・パラリンピック2020 国立競技場

東京オリンピック・パラリンピックは、1年延期されて来夏に開催される予定です。一昨年暮れに私たちは世界からのお客さん向けに写真集『福島から世界へ感謝と歓迎』を出して、世界中の在日本大使館・領事館の「文化・広報」に寄贈しました。来年こそコロナ禍が収束して無事に世界中からお客さんを東京にお迎えしたいと懸命に祈っています。

12月1日、新装した国立競技場に行ってきました。みなさんに近況をお伝えしたいと勢い込んでいったのですが、神宮の広い競技場の周りを一周しても、周りにはすべて塀が巡らされていて、競技場内部の様子を撮影することができませんでした。今回アップした写真は、外から見た競技場の風景です。大きな競技場のどの高い窓のテラスも、樹木の緑に囲まれており、日本の豊かな自然の安らぎ・潤いと両立するような、心の熱く燃えるオリンピックが実現するのではないかと、わくわくする思いでした。

世界中のアスリートが一斉にここに現れる日を待ち焦がれています。その時、みなさんも世界の人々の競技の模様をテレビ映像などで一緒に楽しんでくださいね。もしかしたらこの入場口でお会いする仲間がいるかもしれませんね。暗い話題に押さえ付けられていた人々の心を、思い切り解放させてくれるオリンピックになることを祈っています。

